

革命通信

第8号
9月15日
定価100円

共産主義者同盟
マルクス・レーニン主義
赤軍派
編集委員会

誓を新たに、 再び六つのスローガンを提起する

全国の同志諸君！

朝鮮侵略反革命戦争が発動寸前である。8/16板門店事件を見よ！7/8日米安保協議会で結成された日米防衛協力委戦争司令部の下での予行演習として8/18板門店事件が起つたのだ。天皇制ファシズムが前面化している。ロッキード事件の中で執行権力は肥大化し、独立化し、天皇制との結合を強化している。ブルジョア階級は、階級独裁の維持、延命のために、議会政治の混亂の裏で、天皇制ファシズム的統治形態の転換に突き進んでいる。十一月天皇在位50年「記念式典」攻撃が労働者階級・勤労大衆に加えられている。更に、ミク25函館空港強行着陸で暴露されたソ連社帝の腐敗と日本侵略の野望。同志諸君！情勢は、我々が予想した方向に突き進んでいる。今こそ、この時こそ、武装して斗う非合法党の創建に全力を集中させねばならない。日帝打倒プロ独・社会主義革命を戦取せねばならない。

我々一編集委員会は、一年半の苦斗を踏まえ、再び、六つのスローガンを提起する。六つのスローガンの下に、全ての共産主義者は団結せよ！もつて、武装して斗う非合法党を組織し、組織しぬき、革命戦争をとことん遂行し、党一統一戦線・赤軍の不抜の陣型を建設せよ。

(1) 経済主義・テロリズムの急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命路線を獲得しよう！

我々は、マルクス・レーニン主義を基礎とし、確固さと、継承性を持つ職業革命家の組織を中心とする武装して斗う非合法党を創建し、日帝打倒・プロ独・社会主義革命を戦取することが現代日本革命に於ける最も重要な、最も重要な義務であり、目的だと確信する。「上からの内乱」に耐え、打ち破り、労働者階級の解放を勝ち取る道は、これしかない。そしてブランドに内在していた急進民主主義を清算すること、これが、最も緊要な、最も重大な義務を果す前提条件である。

(2) 反スタ・トロツキズムを清算し、反帝反社帝・マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得しよう

これは、綱領の原則的部分・思想路線と歴史的部分・国際路線の問題である。

創刊号では「反スタ・マルクス主義を揚棄し……」となつてゐる。何故、改めたのか。反スタ・マルクス主義ではないこと、次に、この問題に関し今日のブランド系諸派が、トロツキズムの影響を受け、トロツキズムと毛沢東思想を折衷する傾向にあること、ゆえに、「反スタ・マルクス主義の揚棄」ではなく、「反スタ・トロツキズムを清算」に改められたべきであった。

(3) 日米安保体制を粉碎し、日本帝国主義を打倒し、米帝国主義を追放し、プロレタリア階級独裁を樹立し、社会主義を建設し、共産主義を実現しよう！天皇制を打倒しよう

これは、綱領の実践的部分・戦略路線である。

(4) 「日共」宮本一派、社会主義協会、革マルなどの修正主義・社会帝国主義集団を打倒し、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を創建しよう！武装して闘う非合法党を建設しよう！

これは、マルクス・レーニン主義党の創建を日本革命の政治路線の中に具体化する問題である。

(5) プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を通じた指導の下に、人民を結集して社会主義統一戦線を結成し、赤軍を建設し、革命政府を樹立しよう！

これは、日本革命の原動力と統一戦線の問題である。創刊号では「プロレタリア階級の指導の下、社会主義統一戦線を結成し……」となつていて、改めた理由は、創刊号では、革命の原動力と統一戦線の問題を党との関連で明確にしえていなかつたからである。

(6) 米・ソニ大帝国主義の霸権主義に反対し、社会主義国と共に第三世界の民族解放闘争を支援しよう！

米帝・日帝の朴政権を手先とした朝鮮侵略反革命に反対し、朝鮮人民の自主的平和的統一闘争、南朝鮮人民の反米反日朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民主的民族的権利のための闘争を支援せよ！

米ソニ大帝国主義のアラブ・パレスチナ侵略・分割戦・霸権主義に反対し、イスラエル、アラブ反動派と闘うアラブ・パレスチナ人民を支援せよ！

全国の同志諸君！

我々は発刊宣言で誓つた。「我々は、旧同盟、赤軍派敗北の教訓を全ゆる階級実践に生かし、不抜の労働者階級の前衛党建設に結びつけ、プロレタリア階級独裁樹立（＝社会主義革命のこと）－編集委）、共産主義革命に勝利していくかねばならないし、それこそ我々の責務だと考えている」と。この責務を完全に果す。我々の斗いは、いま始つたばかりだ。

☆☆☆☆

毛沢東主席を追悼する！

毛沢東中国共産党中央委員会主席が9月9日未明、82年の革命的生涯をもつて逝去したこと我々は深い悲しみをもつて受けとめ、深い革命精神をもつて追悼する。

毛主席はその持久戦略をもつて中国の封建主義、軍閥、資本主義を打ち破り、日本を始めとする帝国主義を打ち破り、偉大な中国革命を達成した。そしてM・L主義を継承発展させ、人民を基軸にした毛沢東思想を確立しプロ独継続革命として社会主義過渡期の革命理論を提起したのである。文化大革命の中で明らかになつたように、普段に生成するブルジョワ思想と走資派の復活を許さず、批林批孔運動・走資派批判を全人類的に展開し、プロ独継続革命を更に強化しているのである。

更に毛主席は反帝反社帝世界革命戦略を提起し、ソ連社会帝国主義の霸権主義を全世界プロレタリアートの前に暴露し、才三世界を始めとした全世界の被抑圧民族、プロレタリアートの更なる団結を促している。我々は、こうした毛主席の偉大な業績を断固として評価し、毛沢東思想の立場に立脚するものである。

しかし、我々は、日本における毛沢東思想派が陥っている一国主義、先進国における二段階革命戦略を断固として批判し、更に中国共産党的世界党建設の欠落を批判していかなければならない。

全ての同志・友人諸君！

毛主席の偉大な革命業績を弁証法的に継承し、M・L主義、毛沢東思想に立脚し、毛主席逝去の悲しみを革命の武器に転化し、更に前進していくうではないか。革命勝利こそ毛主席への最大の追悼なのである。

一九七六年九月九日



ベトナム社会主義共和国

統一国会が開かれた！

米帝を追放し、カイライ政権を打倒し、ベトナム南部の民族解放・民主主義革命に大勝利し、祖国統一をなしとげた統一ベトナムの国会が開かれた！全ベトナムの労働者、農民・兵士・お年寄り・子供が自主・独立の統一国会開催の勝利を祝い、偉大な社会主義建設をめざし奮闘努力することを改めて誓いあつた！「われわれは米侵略者に勝利した。この美しい祖国は永遠にわが人民の手に帰つた。われわれはわが祖国の雄大な豊かな山河の完全な主人公となつた。われわれは、必ず、今よりも十倍も美しい堂堂とした素晴らしい祖国を再建するだらう。」—この勝利の喜びと、新たなる決意のもとベトナム人民は新しい段階へと前進しはじめた。

新しい段階への突入は、レーニン主義の勝利である

ベトナム社会主義共和国は、「われわれの抗米救国斗争の全面的な完全な勝利によつて、ベトナム革命は新しい段階、全国における社会主義革命の段階に入つた。」と宣言し、ベトナム南部で民主主義革命を基本的に終えたことを確認し、すぐさま社会主義革命、社会主義建設に着手した。そうだ！ここにこそ後進国・第三世界での二段階革命戦略・レーニン主義がある！「結果は、われわれの言つたとおりになつた。革命の進行過程は、われわれの考えかたの正しかつたことを確証した。はじめは『すべての』農民とともに、君主制に反対し、地主に反対し、中世的制度に反対して（そして、そのかぎりでは革命はまだブルジョア的、ブルジョア民主主義的である）。つぎに貧農とともに、半プロレタリアートとともに、すべての被擁作者とともに農民の金持、富農、投機者をふくむ資本主義に反対して、そして、そのかぎりでは革命は社会主義的なものとなる。前者と後者のあいだに人為的な万里の長城をきずき、プロレタリアートの準備と程度と、プロレタリアートと貧農の団結の程度以外のあるものによつて両者を区別しようとしていることは、マルクス主義をはなはだしく曲解し、これを俗悪化し、自由主義とすりかえることである。」（「プロレタリア革命と背教者カウッキー」）

ベトナム社会主義共和国は、後進国、第三世界における二段階革命戦略・レーニン主義

をしつかりと守り、「前者と後者のあいだに人為的な万里の長城をきずき」生産力主義にめざし奮闘することを改めて誓いあつた！「われわれはわが祖国の雄大な豊かな山河の完全な主人公となつた。われわれは、必ず、今よりも十倍も美しい堂堂とした素晴らしい祖国を再建するだらう。」—この勝利の喜びと、新たなる決意のもとベトナム人民は新しい段階へと前進しはじめた。

新しい段階への突入は、レーニン主義の勝利である

かゝって中国では民主主義革命が基本的に終つた後、人民民主主義独裁をプロレタリア階級独裁に発展・転化し、すぐに社会主義革命に移行すべきであるのに、劉少奇、陳伯達などの（中国のブハーリン・ルイコフ一派）は富農・ブルジョアジーの利益を代表し、社会主義建設に反対した。この反社会主義分子どもは、とくに農業の集団化に反対し、「まず機械化、そのあとで協同化」「新民主主義を強固にし、永遠に強固にする」と修正主義・生産力主義を吹きまくつた。しかし、このような反社会主義分子によるマルクス主義の俗悪化・自由主義・生産力主義・資本主義復活のたくらみは毛沢東主席・中国共産党の指導のもと、労農大衆によるプロレタリア階級独裁の革命的実施によってこつぱみじんに粉砕された。「わが国の条件のもとでは、まだ協同化してからでなければ大型機械をつかうことはできない」（毛沢東が『組織せよ』）とおりになつた。革命の進行過程は、われわれの考えかたの正しかつたことを確証した。進国・第三世界での二段階革命戦略・レーニン主義がある！「結果は、われわれの言つたところではない。マッカーサーは日本で土地を分けて、これはなおブルジョア革命の範疇のことである。土地分配は、べつに珍らしいことではない。ナポレオンも土地を分配した。土地改革で資本主義を消滅することはできない。」（毛沢東『哲学問題にかんする講話』）と反社会主義分子どもは批判された。

中国は世界でまつ先にソ連社帝がもつとも危險な帝国主義であることを見ぬき、一貫しおちいることなく、ベトナム北部ではひきつづき社会主義建設と社会主義的生産関係の完成をめざし、ベトナム南部では新しい段階、社会主義的改造と社会主義建設をめざしている。

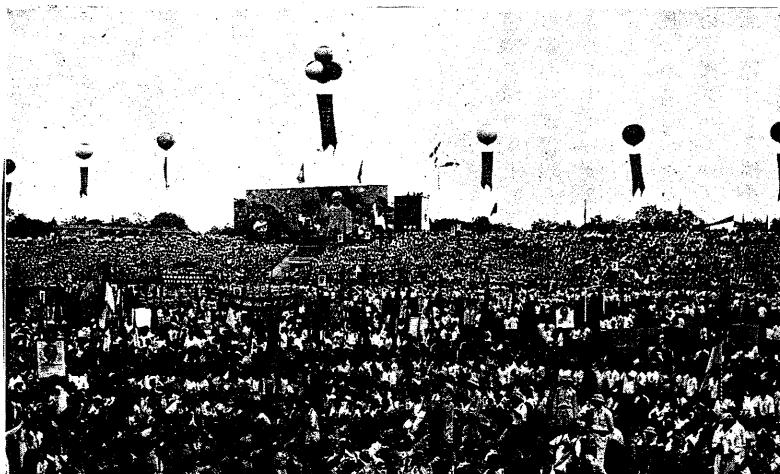
かつて中国では民主主義革命が基本的に終つた後、人民民主主義独裁をプロレタリア階級独裁に発展・転化し、すぐに社会主義革命に移行すべきであるのに、劉少奇、陳伯達などの（中国のブハーリン・ルイコフ一派）は富農・ブルジョアジーの利益を代表し、社会主義建設に反対した。この反社会主義分子どもは、とくに農業の集団化に反対し、「まず機械化、そのあとで協同化」「新民主主義を強固にし、永遠に強固にする」と修正主義・生産力主義を吹きまくつた。しかし、このように反社会主義分子によるマルクス主義の俗悪化・自由主義・生産力主義・資本主義復活のたくらみは毛沢東主席・中国共産党の指導のもと、労農大衆によるプロレタリア階級独裁の革命的実施によってこつぱみじんに粉砕された。「わが国の条件のもとでは、まだ協同化してからでなければ大型機械をつかうことはできない」（毛沢東が『組織せよ』）とおりになつた。革命の進行過程は、われわれの考えかたの正しかつたことを確証した。進国・第三世界での二段階革命戦略・レーニン主義がある！「結果は、われわれの言つたところではない。マッカーサーは日本で土地を分けて、これはなおブルジョア革命の範疇のことである。土地分配は、べつに珍らしいことではない。ナポレオンも土地を分配した。土地改革で資本主義を消滅することはできない。」（毛沢東『哲学問題にかんする講話』）と反社会主義分子どもは批判された。

中国は世界でまつ先にソ連社帝がもつとも危險な帝国主義であることを見ぬき、一貫しおちいることなく、ベトナム北部ではひきつづき社会主義建設と社会主義的生産関係の完成をめざし、ベトナム南部では新しい段階、社会主義的改造と社会主義建設をめざしている。

かつて中国では民主主義革命が基本的に終つた後、人民民主主義独裁をプロレタリア階級独裁に発展・転化し、すぐに社会主義革命に移行すべきであるのに、劉少奇、陳伯達などの（中国のブハーリン・ルイコフ一派）は富農・ブルジョアジーの利益を代表し、社会主義建設に反対した。この反社会主義分子どもは、とくに農業の集団化に反対し、「まず機械化、そのあとで協同化」「新民主主義を強固にし、永遠に強固にする」と修正主義・生産力主義を吹きまくつた。しかし、このように反社会主義分子によるマルクス主義の俗悪化・自由主義・生産力主義・資本主義復活のたくらみは毛沢東主席・中国共産党の指導のもと、労農大衆によるプロレタリア階級独裁の革命的実施によってこつぱみじんに粉砕された。「わが国の条件のもとでは、まだ協同化してからでなければ大型機械をつかうことはできない」（毛沢東が『組織せよ』）とおりになつた。革命の進行過程は、われわれの考えかたの正しかつたことを確証した。進国・第三世界での二段階革命戦略・レーニン主義がある！「結果は、われわれの言つたところではない。マッカーサーは日本で土地を分けて、これはなおブルジョア革命の範疇のことである。土地分配は、べつに珍らしいことではない。ナポレオンも土地を分配した。土地改革で資本主義を消滅することはできない。」（毛沢東『哲学問題にかんする講話』）と反社会主義分子どもは批判された。

中国は世界でまつ先にソ連社帝がもつとも危險な帝国主義であることを見ぬき、一貫しおちいることなく、ベトナム北部ではひきつづき社会主義建設と社会主義的生産関係の完成をめざし、ベトナム南部では新しい段階、社会主義的改造と社会主義建設をめざしている。

かつて中国では民主主義革命が基本的に終つた後、人民民主主義独裁をプロレタリア階級独裁に発展・転化し、すぐに社会主義革命に移行すべきであるのに、劉少奇、陳伯達などの（中国のブハーリン・ルイコフ一派）は富農・ブルジョアジーの利益を代表し、社会主義建設に反対した。この反社会主義分子どもは、とくに農業の集団化に反対し、「まず機械化、そのあとで協同化」「新民主主義を強固にし、永遠に強固にする」と修正主義・生産力主義を吹きまくつた。しかし、このように反社会主義分子によるマルクス主義の俗悪化・自由主義・生産力主義・資本主義復活のたくらみは毛沢東主席・中国共産党の指導のもと、労農大衆によるプロレタリア階級独裁の革命的実施によってこつぱみじんに粉砕された。「わが国の条件のもとでは、まだ協同化してからでなければ大型機械をつかうことはできない」（毛沢東が『組織せよ』）とおりになつた。革命の進行過程は、われわれの考えかたの正しかつたことを確証した。進国・第三世界での二段階革命戦略・レーニン主義がある！「結果は、われわれの言つたところではない。マッカーサーは日本で土地を分けて、これはなおブルジョア革命の範疇のことである。土地分配は、べつに珍らしいことではない。ナポレオンも土地を分配した。土地改革で資本主義を消滅することはできない。」（毛沢東『哲学問題にかんする講話』）と反社会主義分子どもは批判された。



1975年5月15日、ハノイで行なわれた戦勝祝賀大集会

中・朝・インドシナ三国の団結
を望む！

今秋、朝鮮・廻山・天皇・三里塚、三争の大爆発を勝ち取り、本格的革命情勢を切り拓け！

はじめに

赤垣軍蔵

7月27日 前首相田中角栄が逮捕された。

戦後「高度経済成長」の政治的・人格的象徴たる田中の逮捕は、まさに戦後ブルジョア階級独裁・保守合同以降のいわゆる「55年体制」の根底的動搖とそのド拉斯ティックな崩壊の第一歩を明示している。

今日、戦後政治を專制的に支配してきた自民党は動搖、混乱し、分裂の危機を迎える、「真相究明」「人心一新」と暗斗を繰り返し、ブルジョア政治委員会・政府の覇権争奪に日夜あけくれている。かかる日帝ブルジョア政治委員会・政府の大混乱と深刻な危機は、ブルジョアジー・俗物評論家共が描き出す様な「自民党内の派閥力学」や「田中を自民党支配の暗黒面・腐敗面として切り捨てれば解決できる」と言つた単純な問題では決してない。問題は、日帝がそのブルジョア階級独裁の專制支配を旧來の議会制民主主義的統治形態では、もはややつていけなくなつたことにあり、より徹底した侵略と反革命・反動と抑圧・天皇制ファシズムの直接的・軍事的統治を不可避とする時代へ突入したことにある。

我々は事態の本質をはつきりと見極め、労働者階級の大義の名の下に、我々の手でブルジョア階級の墓場を堀りあげなければならぬ。

第一章 日帝の体制的危機の深化

(1) ロツキード事件の本質

そもそもロツキード事件とは、ベトナム・インドシナ侵略・反革命戦争への敗北を通して引き起された米帝をその盟主とする戦後世界体制の地盤変動、日々強まる帝国主義の侵略、反革命戦争の野望と米ソ二大超大国の第三次分割戦を不可避免とする現下の階級情勢の中にあって、帝国主義の政治的、経済的危機、帝国主義間の対立、抗争の必然的産物として発生、露呈したものであり、現代帝国主義の腐敗の底知れぬ構造的深さをさらけ出したものである。より具体的に言えば、安保体制の下で形成されてきた日帝ブルジョアジーの寄生的性格、右翼、戦犯勢力を支柱とする戦後日帝の腐敗した構造、安保・日「韓」体制・日米「韓」の黒いゆきを明らかにし、帝国主義の寄生性・腐朽性を明らかにしたものである。「今日、帝国主義と銀行の支配とは、富の無制限の権力を擁護し、実現するこれらの二つの方法（直接の官僚買収と政府と取引所の同盟）をなみみなならぬ技量に発達させている」（「国家と革命」）と言ふレーニンの言葉こそロツキード事件の本質を美事に言い表わしたものに他ならない。そして、かかる事態の露呈は単に一個人、一企業が議会制民主主義的統治形態の枠組みをはみだすことによって発されただけではなく、「高度経済成長」の破綻、不況の重圧の長期化の中で、巨大独占企業間、政界と財界に於ける競争・対立の累進的激化の結果、噴出してきたものであり、その体制的危機の深化、拡大の產物だったのである。

かくて日帝は、その危機の乗り切りと本質の陰べいのために前首相田中逮捕という最悪の暴力的破壊の方策を採用し、戦後日帝のあり方を一身に体現してきた田中的存在を切り捨てることを通して、その維持、延命を計らんとしたのである。

しかし「高度経済成長」の落し子たる田中やその下で育成された丸紅、全日空等々の新興ブルジョアジーの切り捨てで、日帝の危機や事態の本質をおおい隠すことは不可能である。

何故ならば、田中の逮捕とは、まさに保守合同以降の「55年体制」と言う戦後日帝の政治、経済構造そのものを日帝ブルジョアジー自身が否定したに他ならず、旧來の枠組みの中では最早「解決」しないからであり、田中・橋本・中曾根・児玉・小佐野等々の個人の倫理上の問題にのみ歪曲、すりかえられない本質的な問題だからである。従つて事態の進行は「自民党延命」と言う政治一派閥力学の上に立つた首相三木の思惑をはるかに超えた形で展開し始めたのである。

安保一日「韓」体制の下で、ありとあらゆる企業犯罪、権力犯罪を駆使して、自らのふところを肥してきた独占ブルジョアジーが「ウミがあるならば、はつきり取り除かなければ自由主義經濟はなりたたない」（経団連会長土光）などと白を切り、自らの「潔白」を叫けばとも、既に暴露された事態の本質はどうてい隠し得ない。独占資本が全ての領域を支配し、生産手段の独占の上で労働者・労人民・被植民地國人民を搾取し、自らの利潤を得、暴利をむさぼることを自らの本性としている限り、かかる白々しい言動は、ブルタリア階級人民の自覚を高めこそはすれ、策が功することはもはやなく、体制的危機の深化を強めるだけであり、破局への道のりを早めるのにすぎないのである。

(2) 体制的危機の深化とその再編への環

我々は、田中逮捕が戦後ブルジョア階級独裁の統治形態を根本から振り動かすものとして、又、その崩壊とこれを利用した新らたな政治再編の具体的開始を正しく見極めねばならない。

それは、日経連セミナーに於ける桜田の次の発言の中に窺い知ることが出来る。桜田は、この中で「田中はあくどく、悪い奴だった」とかつての自分達の政治的代理人に追い打ちをかけた後、「しかし三木では、社会的安定は作れない」と不満を述べ、「われわれ（資本家）が優れた官僚機構と企業支配の秩序をキチンと抑えておけば、今日の政治的危機をのりこえることが出来る」と言明している。彼等は、田中逮捕を逆に利用し、警察、司法の「正義性」を前面に押し出し、人民にそれへの幻想を与えるながら、警察的官僚支配の強化を計らうというのだ。

議会政治に於ける彼らの政治委員の破局的危機、保「革」接近や合同はブルジョア階級にとって副次的問題であり、「警察・官僚機構が安定しているかぎり日本はつぶれることはない」（同桜田）のだ。つまり、彼らはブルジョア階級独裁の維持、延命のために、その統治形態を旧來の議会制民主主義から、労働者階級人民への暴力的、直接的統治・ファシズム的統治形態への転換を計らんとしているのである。

彼らにとつて、国会やブルジョア政治委員会内の抗争はもはや主要な問題ではなく、「監獄等を意のままにする武装した人間の特殊な部隊」（レーニン）たる警察・官僚機構の直接的統治で以つてブルジョア階級独裁を延命させ、そのイチヂクの葉たる国会やブルジョア政治委員会を、その限りに於いて利用していこうとしている。それ故、彼等は、彼等の意図の範囲内に於いて、社会安定を可能にする政治ならば、保「革」連合でも、「革新」中道政権でも受け入れるであろうし、現在のブルジョア政治委員会内の抗争も、資本家階級の眼鏡にかなつた人物をその政治的代理人として、多少の曲折はあれ据えようとするであろう。

こうしたブルジョア階級の意図に呼応して、「新らしい日本を考える会」が積極的な活動を開始し、社会党は「左」右への分解をはじめ、「日共」宮本一派は急拠臨時大会を開催し、ブルジョア政党への道を走り始めたのである。

総じて、田中逮捕は、ロッキード事件の「結着」などではなく、帝国主義ブルジョア共の更なる体制的危機を深化させるものであり、そのことは、朝鮮侵略・反革命戦争への絶望的のめりこみ、安保一日「韓」体制の更なる再編強化へと突き進むことを必然化させていく。

第二章 つよまる強権的政治支配

の策動

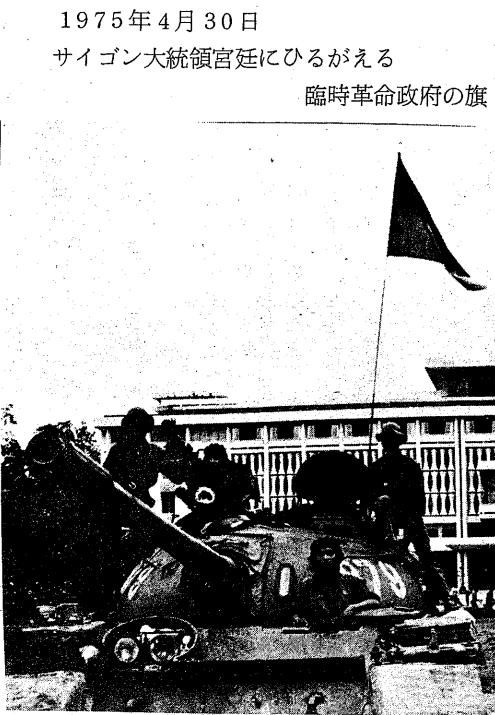
既に述べた様に、日帝はかかるドロ沼への突入に対し、その専制支配の維持・延命のために、ロッキード事件をも利用し、侵略と反革命・反動と抑圧・天皇制ファシズムへの道を選択せんとしている。日帝が帝国主義である限り、その歴史的選択は不可避であり、それ以外に延命の活路はあり得ない。そして現在これへ向けて種々の政治策動が陰に陽に開始されている。

その第一は、「小選挙区制」への強行突破を通して議会を完全に空洞化させ、ブルジョア階級独裁の延命を計らんとする攻撃である。自民党松野政調会長は、選挙制度諮問委員会で「小選挙区制」の実施を次期自民党の選挙公約として打ち出し、福田、大平、田中の各派は各々の派閥で決議をおこなつている。

その第二は、刑法改「正」を突破口とする諸反動立法の制定と、既に実態化され始めている司法の反動化攻撃、その総決算として憲法改悪を強行せんとしている。

更に第三に、これら第一、第二の強行突破の要に天皇制、天皇制イデオロギーを軸とする権威主義、排外主義の露骨な攻撃が開始されている。日帝ブルジョアジーは、この間消失した権威を回復するため、そして種々の階級内外のあつれきを解消するために、11月10日を前後して、天皇在位50年祭の一大カンパニアを国家行事として強行せんとしている。

これらの攻撃は、まさにブルジョア政治委員会がその統治能力を



第三章 日帝の体制的危機の深化

と我々の任務

議会制民主主義的外被をまとつた戦後ブルジョア階級独裁のいきばくまりに対する、より徹底した侵略と反革命、反動と抑圧のファシズム支配への暗黒の道を突きすすむのか、プロ独、社会主義革命崩壊し始め、プロレタリアートの新しい革命的要素が成長する時代である。

現在はまさに、旧く、腐敗し切つたブルジョアジーの専制支配が崩壊し始め、ブルジョアジーの新らしい革命的因素が成長する時代である。我々に突きつけている。ブルジョア階級内の覇権抗争・暗斗、更是我々に突きつけている。ブルジョア階級独裁の維持・延命の方策がないことは白明である。それは個々の自民党政治家の思惑をもこえた不可避的道程である。これがプロレタリア階級、勤労人民の勝利の唯一の道である。

喪失し、旧来の議会制民主主義では、やつていけなくなつてゐる現状を上からの強行的・強権的統治・天皇制ファシズム的統治へと強行転化し、直接的・暴力的にプロレタリアート、勤労大衆を支配していくこうとする露骨な策動に他ならない。そしてロッキード事件の「真相究明」などと、ブルジョア政治委員会の統治能力の低下を補完する形で登場してきた検察・警察権力は、かかる日帝の政治再編の要として、戦前の内務省に匹敵する形で、國家統治の主導的位置を占め始めている。

かかる天皇制ファシズム的統治形態への権力再編は、「高度経済成長」の破綻以降、経済的破局をのたうちまわる日帝が新らたな侵略、反革命戦争の策動を以つてしかその経済的延命を果し得えなくなつてきている情勢と固く結びついている。

戦後世界体制の崩壊、ベトナム・インドシナ完全解放、朝鮮南部の体制的破局の進行とあいまつて、日帝は、過剰資本過剰商品の重圧に苦悶し、その処理に向け、アジアへの就中朝鮮南部への侵略、反革命戦争へプロレタリアート、勤労人民をかりたて、動員することを至上命令としている。それ故にこそ、日帝は、ブルジョア政治委員会のこの間の大混乱と動転にも拘らず、7月8日から日米安保協会を開催し、日米共同の戦争指令部たる日米防衛協力委の設置を強行したものである。これはまさに日帝にとつて朝鮮南部・朴体制の護持が、日帝經濟の死活の生命線であり、朝鮮南部の反革命支配を戦争に訴えて死守することの宣言に他ならない。そしてこのために制服組を訪米させ、今問題の焦点たるP30L導入の内定迄をもおこなつた。更に5年振りに「入管白書」を発表し、椎名メモの実態化たる朴KOIAと一体化した在日朝鮮人への弾圧体制をより一層し、在日朝鮮人への抑圧、分断、同化、差別の排外主義攻撃を日に日に強めている。

以上みてきた様に、この様な策動が日帝の侵略と反革命、反動と抑圧・天皇制ファシズムへのめりこみを意図していることは、最早疑う余地を残さない。従来のブルジョア民主主義の外被をもかなぐり捨てた天皇制ファシズム支配の強権的政治執行体制の確立以外にブルジョア階級独裁の維持・延命の方策がないことは白明である。それは個々の自民党政治家の思惑をもこえた不可避的道程である。

(1) 倭略と反革命。反動と抑圧＝暗黒への道を 粉碎せよ！

我々は以上の立場に立ち、我々の任務を解明にしていかなければならぬ。

第一の任務は、議会制民主主義を軸とする戦後ブルジョア階級独裁の終焉を天皇制ファシズム的統治形態への再編として乗り切らんとし、朝鮮侵略、反革命戦争へとプロレタリア階級、人民をかりたて、ファシズムと戦争の道を突き進まんとする日帝ブルジョアジーの攻撃に対し、プロレタリア階級、人民の総力を以つてこれを爆破し抜くことである。

日帝は、自らの危機を逆手にとつて、天皇制、天皇制イデオロギーの下に国民を統合し、反共反革命の武力的国内統治を目指し、強力な政治執行体制の下に、朝鮮侵略、反革命戦争に人民大衆を鼓舞し、動員せんとしている。我々は、かかる反動と抑圧の暗黒政治、官僚と警察の暴力的直接支配を拒否し、この間なしくずし的にはぎ取られてきた「政治的自由」と人間的尊厳を守り抜き、プロレタリア独裁の眞の民主主義を斗い取らねばならないし、搾取と抑圧の強化、貧困と飢餓のブルジョア階級独裁の強化＝ファシズムの道を拒否し、それを打ち破り、自由と平等、搾取のない社会主義の道を選択しなければならない。そして又、日帝の朝鮮侵略、反革命戦争の策動に対しては、それを押し止め、戦争の発動に対しては、朝鮮人民と固く団結し、プロレタリア階級解放の革命戦争でそれを打ち破り、プロレタリア階級の権力を打ち樹てねばならない。我々の第一の任務とはまさに、日帝の体制的危機、天皇制ファシズムへの統治形態の転換、朝鮮侵略、反革命戦争の前夜的情勢に対し、プロレタリア階級独裁、社会主義革命の旗を明確に対置し、その勝利に向けて斗い抜くことである。

(2) 社会排外主義。社会帝国主義を打倒せよ！

我々の第一の任務は、体制的危機の深化、革命的情勢の発酵に対して、体制的「改革」を以つて革命を押しつぶそくとする社会排外主義、社会帝国主義潮流の反動的、反革命的役割を徹底批判し、粉砕し抜くことである。

ロッキード事件を契機として、新らな「政権」の受け皿として、社会党江田派、公明党、民社党の社会排外主義潮流は、「中道革新」なる政権構想を持ち出し、「新らしい日本を考える会」として登場し、活動を強めている。彼らこそ、ブルジョア階級の先兵＝労働手代として、「企業内秩序」（桜田）の整備を計つてきた労働者階級内の裏切り者・ブルジョア階級の別動隊たる同盟、JCOを階級基盤とする下からのファシズム運動の組織者である。彼らはブルジョア階級以上の危機意識をさらけ出し、労働組合運動を産業報国会運動に衣替えし、ブルジョア階級に救いの手をさしのべ、ブルジョア階級独裁を補完し、労働者階級をその下に隸属させんとしている。これは体制的危機の中でのたうちまわるブルジョア階級の現在、唯一の成果である。

他方、社「共」、小ブルジョア諸派は、ロッキード事件の「徹底究明」と称して、自らの無力さを恥ることもなく・ブルジョア階級と国会で茶番劇を演じ、新らに登場した「正義の味方」＝警察・検察官僚に拍手を送り、検察権力を「民主主義」の旗手であるかの如く持ち上げている。「国会喚問」は、「国会が国最高機関」ではなく、ブルジョア階級独裁、その專制支配をおし隠すイチジクの葉にしかすぎないことを実証する茶番劇以外のなにものでもなかつた。まして「日共」宮本一派の「三木退陣要求は口事件の究明をウヤムヤにする」と言つた三木擁護論など言語道断であり、問題の解決をブルジョア秩序の枠内に押し止め様とするブルジョア階級への媚へつらうに他ならず、「独占資本の民主化」（「日共」宮本一派なる誤けの訳らない「ロッキード究明」）斗争になるのである。

(3) 武装し斗う非合法党＝マルクス・レーニン 主義の前衛党を斗い取れ！

そして、我々の第三の任務は、かかる第一、第二の任務を遂行し切るための、プロレタリアート、勤労大衆の戦斗指令部＝マルクス・レーニン主義で武装した前衛政党の建設である。情勢の急展開、革命的情勢の端初的開始は、社会民主主義、現代修正主義の反革命的本質を暴露し、小ブルジョア諸派の無力さを大衆的に暴き出し、その没落を不可避としている。

革命と戦争の時代は、まさにマルクス・レーニン主義の前衛党とプロレタリア階級をうち鍛える。そして、革命的前衛と革命勢力の鉄の団結のみが、革命の勝利を可能とする。

我々は、プロレタリア階級の全ゆる斗いと創意を統合し、その勝利への道を領導するプロレタリアートの前衛＝戦斗指令部を創建しなければならない。この革命的前衛の斗いなくして、全ゆる労働者階級解放の方策も無であり、水泡の如き存在にしかすぎない。

帝国主義の侵略、反革命戦争をプロレタリアート解放の革命戦争で打ち破り、プロレタリア階級独裁樹立に向け、プロレタリアート、人民を一貫して領導する不抜の革命党的創建こそ、血で血を洗う、階級と階級の激突の時代に導びく我々の緊要の任務である。

第四章 今秋期政治斗争の大爆発 を斗い取れ！

我々は、以上の基本任務を完遂していく上で、今秋期三大政治斗争の大爆発を克ち取り、朝鮮侵略、反革命戦争の前夜的情勢を革命的危機へと転化するために、あらゆる精力を傾注しつくし、刻苦奮斗しなければならない。

現在、政府、空港公團は開港の見通しのつかぬ絶望的危機の中で、唯一岩山大鉄塔の破壊を敢然と拒否し、空港建設を廃港に追い込む大決戦を振りまいしているが、その目論みは、農民の不屈の闘魂の前に破産を宣告されている。

日帝の三里塚空港早期開設の戦略的位置は、特にベトナム・インドシナ完全解放後の現在、その帝国主義的利害を急速に朝鮮侵略、反革命に求め、その戦略的基地としての空港建設と言う意味で極めて大きなものとなつてきている。この間のロッキード事件でも暴露された様に田中一二クソン会設の新「韓」国条項の中で、三里塚空港開設は日米帝国主義の共通の課題として提起されている。

我々は、かつて三里塚斗争を「日帝の侵略前線基地化阻止」と位置付けていた。確かに現在、日帝の朝鮮侵略、反革命をめぐつて空港建設は日帝の焦眉の課題であるが、我々は、この十年にもわたる

要するに彼らは、革命ではなくブルジョア階級から与えられた寄生的地位にすがりつきながら、ブルジョア階級の許容範囲で「社会改良」をプロレタリア階級に呼びかけ、ブルジョア階級独裁の專制支配を手助けようと言うのだ。彼等の本意は、まさに腐敗しきつた資本主義制度を美化し、労働者、大衆をブルジョア専制支配のエジキに供え続けることにあり、搾取と抑圧、飢餓と貧困に耐え続けることを労働者、大衆に強いているのだ。

我々と彼らの相違は、階級斗争を堅持し革命に向うのか、革命から後退し、逃亡を開始するのかの決定的、本質的相違であり、彼らとの斗争、批判は、プロレタリア階級、人民がその勝利を手中するためには避けは通れない道程である。

三里塚斗争の中で提起された多くの問題を再度抱え返していかねばならない。

その第一は、新全総・列島改造論を軸とした農村破壊・解体攻撃と都市下層プロレタリアートの分断の創出という日帝の階級再編の攻撃である。かかる日帝の階級政策に手を借りているのが、総評民同、同盟、J.O等の労働貴族・組合上層部であり、社会帝国主義の道を進み日帝の左足と化している「日共」宮本一派、カクマルである。彼らの三里塚斗争への関わりは、既に暴露されている様に、改良主義、純プロ主義の農民ベツ視に基づく斗争破壊のそれであり、反対同盟から完全に放逐されたものであった。日帝の農業政策は東南アジアからの搾取をベースにした国内農村解体として進行し、田中角栄が表明した様に、「全土工業化」政策としてある。三里塚農民の斗いは、土地奪還、防衛を旗印に開始され、こうした農村解体・都市下層プロ創出という回路をぶち壊す斗争へと発展したのであり、砂川、北富士、日本原、そして現在の福島潟干拓地農民の斗いとして、革命的農民運動を労、農、学生携の下に創出するものであった。

第二に、第二次強制代執行阻止斗争の中で「三里塚のザンゴウはベトナムに続いている」と敢然と表明したように、プロレタリア国際主義の下に第三世界革命斗争と共に地平に立っているということである。ブラック・パンサー党やP.F.L.Pとの革命的な交流や連帯を確認し、三里塚で勝利することが、日帝の侵略・反革命を阻止し、全世界の労働者、被抑圧人民との結合の道であることをこの間の斗いははつきりと示している。

その第三に、第二次強制代執行阻止斗争や、9・16 東峰十字路斗争が示しているように、敵・日帝と三里塚農民の矛盾は、全ゆる妥協やごまかして解決されるものではなく、非妥協的な武装斗争でもつてのみ解決できることを全国の労働者、農民に指示したことである。我々は、だからこそ全ゆる勢力を総決集し、勝利しなければならない。

(2) 10月狭山最高裁決戦に総決起せよ！

今秋期斗争の第二の任務は、10・31 狹山最高裁決戦を5・23決戦を上まわる万余の革命的人民の大決起を以つて大爆発させることである。

5・22、23 斗争の大爆発の革命的意義は、第一に、部落解放運動の歴史的転換路線を着実に打ち固め、狭山斗争を頂点とする部落解放運動に全國千五百枚、十万部落子弟によつて発せられた第二の「部落民宣言」と言う新らな政治的新風を注ぎ込んだことであり、第二に「朝田、松井、一派の『同盟休校』策動反対」と「日共」官本一派によつて執擁に繰り返えされた融和主義、差別キヤンペーンを打ち破り、五万余名の水、労、農、学の革命的隊伍を創出したことにある。そして第三に、「狭山は終つた。次は同対審だ」と言つた融和主義、「最高裁三段階論」と言つた日和見主義をこつぱみじんに吹き飛ばし、狭山斗争を「たたかわらずして解体」に追い込もうとした日帝・藤林・吉田体制の思惑を最後的に葬り去り、狭山最高裁決戦を全人民的政治斗争へと押し上げ、斗いの主戦場を形成せしめたことにある。我々は、かかる5・22・23斗争の切り拓いた地平を押し拡げ、狭山最高裁決戦の戦略的高地を獲保すべく10・31決戦への総決起を斗い取らなければならぬ。

狭山決戦に於ける我々の第一の任務は、書面審理——「上告棄却・石川有罪」——寺尾反革命差別判決護持を目論む、日帝・藤林・吉田体制に対して、徹底した斗いをいどみ、口頭弁論一事実審理

の場に引きずり出し、石川氏無実をはつきりと証明する全証拠の開示を斗い取らねばならない。

第二は、日帝は、狭山斗争の全人民の大爆発と部落解放運動の革命的前進に恐れをなし、只々石川氏を獄中に閉じ込め、斗いの圧殺を目論んでいる。我々はかかる反革命攻撃を爆碎し、生きて石川氏を何んとしても奪還しなければならない。

そして第三は、部落解放運動への敵対を唯一の目的として、融和主義者との反革命的盟約を結び、「正常化連」から「全解連」へと衣がえをした差別者集団「日共」宮本一派を断固粉碎しぬき、あらゆる戦線から放逐しつくさねばならない。

そして我々は、狭山斗争の発展、勝利を「人事極秘・特殊部落地名監」攻撃徹底糾弾の斗いと結合させ、日帝の差別・分断支配の強化を粉碎し、部落解放運動の革命的・階級的前進・被差別部落完全解放・プロ独・社会主義革命を斗い取らねばならない。我々は、この攻撃が朝鮮侵略・反革命戦争を不可避とする階級情勢に規定されたそれであり、戦争準備の一環であることをはつきりと見抜き斗い抜かねばならない。そして、この徹頭徹尾部落差別に塗り固められた差別文書が、部落民全体の社会的「抹殺」を狙つてゐることをはつきりと確認し、三百万部落大衆の生存と未来をかけて、徹底糾弾・粉碎していくかねばならない。

(3) 天皇在位50年『記念式典』祭を粉碎せよ

昨秋天皇訪米をおおきなテコとして、日帝は、朝鮮侵略、反革命戦争体制の強化に向けて、天皇をその政治の前面に押し出し始めている。

11月10日に强行せんとしている天皇在位50年祭は、まさにこれらの攻撃の一環たる露骨な反革命攻撃である。

朝鮮南部に於ける体制的破局への進行・アジアに於ける支配体制の危機の促進と、國內に於けるプロレタリア階級・人民の総反撃の前に、日帝は、これまで通りの支配を維持しえなくなり、ブルジョア階級独裁の維持、延命のために、その統治形態を議会制民主主義から天皇制・アシズム的統治へと転換せんとしている。とりわけ、ロッキード事件の露呈の中で大混乱に陥入つてゐるブルジョア政治委員会の権威失墜に歯止めをかけ、諸階級人民を何んとか日帝の下に集約せんとした天皇在位50年祭は、日帝ブルジョアジーの最後の切札である。日帝ブルジョアジーは、「原子爆弾が投下されたことは、やむえなかつた」との天皇発言を受け、自らの專制支配の維持のために天皇を利用し、この下に国民統合を計らんとしているのだ。

そもそも、天皇裕仁の50年とは、まさに侵略・反革命の50年であり、アシア人民の血にまみれた50年である。侵略、反革命戦争の最高峰責任者として数百万人民の命を奪い去つた張本人の延命の「祝い事」など、反人民的反革命策動以外の何ものでもない。

我々は、この天皇在位50年祭なる「国民行事」を通して、天皇制アシズムへの道を掃き清め、朝鮮侵略、反革命戦争の引きがねをしてあり、同時にプロ独・社会主義革命の勝利なくして自己完結しない斗いであることをはつきり確認し、斗い抜いていかねばならない。

いざ出陣へ！ 共に斗い抜かん。（8頁につづく）

(I) 安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ

独・社会主義革命勝利―天皇制打倒！

M・シ主義に立脚した武装して斗う非合法党を創建せよ！

M・シ主義党の指導の下、労、農、水、学の社会主义統一戦線を建設せよ！

(II) ブルジョア階級独裁の再編、強化！

天皇制ファシズム的統治形態への再編粉碎！

日・米帝の朝鮮侵略反革命戦争を革命戦争で打ち破れ！

社会帝国主義、社会排外主義を打倒せよ！

(III) ★安保問題に関して。

日米安保協定粉碎！日米協同の戦争司令部・防衛協力委粉碎！自衛隊の反革命的再編、強化阻止！「五次防一粉碎！」沖縄の朝鮮侵略反革命前線基地化阻止！在日米軍基地撤去！

★朝鮮問題に関して。

日米帝国主義の朝鮮南北分断固定化」「クロス承認」策動粉碎！日韓条約粉碎！入管法・入管体制粉碎！K C I A、日帝政治警察の一体となつた在日朝鮮人弾圧糾弾！金芝河、金大中氏等への不当弾圧糾弾・全「政治犯」を直ちに釈放せよ！

★国内問題に関して。

天皇在位50年「記念式典」粉碎！
小選挙区制粉碎！刑法改「正」保安処分新設策動粉碎！
狭山差別裁判徹底糾弾！最山最高裁決戦勝利！無実の石川氏即時釈放！
「部落地名総監」「部落里斯ト」攻撃粉碎！
三里塚空港粉碎！岩山大鉄塔実力防衛！三里塚斗争勝利！

「①我々は、現代修

正主義に転落した『共産党』から袂別し、トロツキズムの革共同に反対してきた共産主義同盟（ブレド）の一分派である。我々は、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義を創建し、アジアの社会主义国、民族解放闘争と結合して、日本革命、つまり、日本帝國主義打倒、米帝国主義追放、プロレタリア階級独裁・社会主义革命を実行することを当面の目的とする。……」

高原 浩之

（付）〈プロ革派〉の急進民主主義を批判す

価格 550円

『草案』より G

革命通信

を定期購読しよう！

（12頁からのつづき）

主觀に客觀を合さず、客觀に主觀を合すべきである。つまり、パレスチナ革命への日本人民義勇軍として、パレスチナ人民と共に、PFLPの統制の下で、米帝の手先イスラエルシオニズム国家と斗うべきである。そうすれば、作戦も占領地でのイスラエルシオニズムの軍隊との戦争になるだろう。了。（本年四月執筆）

よど号ハイジャック公判闘争 新たな前進のために！

よど号ハイジャック公判闘争

被告団

(文責 高原浩之)

I 公判斗争と党建設をめぐる二つの路線の斗争（前号）

II 朝鮮革命と日本革命と反霸権斗争

(1) 戦争と革命の時代が始まっている！

朝鮮革命、朝鮮人民の自主的平和的統一斗争、南朝鮮人民の反米・反日・朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民族的民主的権利のための斗争を支持せよ！

(3) 朝鮮革命と結合し、米帝・日帝の朝鮮侵略反革命を日本革命に転化せよ！安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命！

(4) 安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命をとことん推進し、ソ連社帝の侵略に反対せよ！

III パレスチナ革命と「日本赤軍」に対する我々の態度

(1) パレスチナ革命の新たな前進が始まつた。

(2) 「日本赤軍」はパレスチナ革命への日本人民義勇軍として斗うべきである。（本号）

朝鮮革命と日本革命と反霸権斗争

我々は、よど号H J公判斗争を日本帝国主義の植民地支配に反対して、日本人民が朝鮮人民と連帯する斗争の一環として斗い抜く。そのためには、日本のマルクス・レーニン主義派としての情勢認識、戦略的総路線を確立しなければならない。

(1) 戰争と革命の時代が始まっている

国際情勢の特徴は以下である。①中国・ベトナム・朝鮮民主主義人民共和国などの社会主義国を根拠地とする民族解放斗争がアジア、アフリカ、ラテン・アメリカ、つまり第三世界の全域へ拡大し、インドシナ人民の勝利の後、南朝鮮とパレスチナとポルトガル、スペインの革命が大前線になつてゐる。②第一世界、つまり二大帝国主義である米ソの霸権争奪が激化し、その主戦場は欧州であり、第三次帝国主義世界大戦の危険性が増大している。③第二世界、つまり二流の帝国主義国である西欧と日本では高度成長が破綻し、恐慌が進行し、ブルジョア民主主義的統治が破綻し、ブルジョア階級とプロレタリア階級の階級対立が激化し、体制的危機が始まり、深まり、社会主義革命へ向けた革命情勢が端的に始まつてゐる。戦争と革命の時代が始まつてゐる。

日本をめぐる国際情勢の特徴は以下である。①インドシナ人民の勝利の後、アジアの社会主義国を根拠地とする民族解放斗争の最前線は朝鮮に移つた。朝鮮民主主義人民共和国と朝鮮人民は自主的和平的統一斗争を強めている。②米帝国主義と日本帝国主義は連合し、米・日・韓体制を強化し、朴政権を手先として、朝鮮侵略反革命を強化し、戦争を準備している。ベトナムの敗北の後、アジアで

の植民地支配体制の最大の要として朝鮮南北分断体制を防衛し、最大の砦として、南朝鮮を維持するために、南朝鮮人民に対する軍事独裁支配を強め、朝鮮民主主義人民共和国に対する戦争を挑発している。日本帝国主義は入管体制、在日朝鮮人に対する民族的抑圧を強化している。③日本をめぐる米ソの争奪が激化している。米帝はソ連社帝から日本を勢力圏として防衛し、アジアでの霸権を維持するためにも、米・日・韓体制を強化しているのである。ソ連社帝は、日帝にたいする経済的誘惑と政治的脅迫とによって、米帝から日本を奪い、勢力圏に組み込み、アジアでの霸権を奪おうとしている。日帝は、南朝鮮支配を維持するために、米帝と連合していると同時に、ソ連社帝と連合する余地も残している。総じて、朝鮮革命の爆発、米帝と日帝の朝鮮侵略反革命戦争、米ソの帝国主義戦争はいずれも不可避免である。

日本の国内情勢の特徴は以下である。①日本帝国主義は、朝鮮侵略反革命の強化、戦争のために、また、増大し、強まつてゐるプロレタリア階級と人民との斗争によつてブルジョア民主主義的統治形態が破綻しつつあるのに對して、社会主義革命への反革命のために、日米安保体制下でのブルジョア階級独裁を反動化している。天皇制を前面化し、官僚、警察、軍隊を一層強化し、両者を結合させ、統治形態をファシズム化しつつある。②日本資本主義の高度成長は破綻し、恐慌が進展し、国家独占資本主義が強化され、その下で、プロレタリア階級と人民に対する搾取（賃金統制）、収奪（赤字財政によるインフレ）、抑圧（産業と行政の合理化）が強化されている。③労働運動と人民斗争が革命的高揚へ向ひつつある。国家独占資本の下の労働組合（公労協）に組織される労働者の斗争は、新・旧修正主義、社会党、「共産党」の支配を突破しつつあり、民間独立資本の下の労働組合における帝国主義的労働運動（民社党、同盟、JC）の支配は搖ぎつたり、社外工、臨時工、中小零細企業の労働者や被抑圧少数民族、被差別部落民の斗争も激化しつつある。総じて、日本帝国主義、ブルジョア階級が今まで通り支配していくことができなくなり、プロレタリア階級と人民が今まで通り支配されることを拒否するようになり、体制的危機が始まり、深まり、革命情勢が端緒的に始まつてゐる。ファシズムと社会主義革命の時代が始まつてゐる。

プロレタリア階級と人民の大衆斗争は、三大水路を通して発展し、爆発しつつある。第一は、朝鮮侵略反革命に反対し、戦争に反対する斗争、第二は、反動化に反対し、天皇制ファシズムに反対する斗争、第三は、國家独占資本主義の下での搾取、収奪、抑圧に反対する斗争である。

このような情勢からして、日本のマルクス・レーニン主義派は、「朝鮮革命と結合し、米帝と日帝の朝鮮侵略反革命を日本革命に転化せよ！」と「安保粉碎、日帝打倒、米帝追放・プロ独・社会主義革命」を戦略的総路線としなければならない。と同時に、「ソ連社帝の侵略反対！」のスローガンも提起しなければならない

(2) 朝鮮革命、朝鮮人民の自主的平和的統一斗争、南朝鮮人民の反米・反日・朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民主的民族的権利のための斗争を支持せよ！

南朝鮮の朴政権は、買弁ブルジョア階級と封建地主階級を基盤とした米日両帝国主義のカイライである。米帝国主義は、朴政権を手

先として、南朝鮮を、一方で、アジアの社会主义国を根拠地とする民族解放斗争に対して、アジアの植民地支配体制を維持し、防衛するための、他方で、ソ連社会帝国主義に対して、アジアにおける霸権を維持し、日本を勢力圏として防衛するための軍事基地としている。日本帝国主義は、朴政権を手先として、南朝鮮を、資本輸出、商品輸出、安価な労働力のための最大の市場、最大の植民地として、一般的に最大の勢力圏、生命線としている。そして、侵略・反革命を経済から政治、軍事へと拡大し、強化しつつある。

南朝鮮では、米日両帝国主義と朴カイライ政権（買弁ブルジョア階級と封建地主階級）に対する民族解放、民主主義革命に直面しているのである。この南朝鮮の民族民主革命は、朝鮮の南北統一の前提である。南朝鮮人民の斗争は、現在、転換点にある。米帝・日帝と朴政権の総力安保体制、南での反革命、軍事独裁支配と北に対する侵略戦争の体制の下で、野党、民族ブルジョア階級は制圧されている。学生・都市小ブルジョア階級は60年4／19「革命」が61年5／16の朴の反革命軍事クーデターで挫折したのを乗り越える飛躍、暴力革命、プロレタリア階級や農民との結合を問われている。

マルクス・レーニン主義の観点、立場からすれば、反米・反日・朴打倒の民族民主革命において、プロレタリア階級は農民と同盟し、この労農同盟を中心として、さらに、都市小ブルジョア階級、一定の程度では民族ブルジョア階級を結集して民族民主統一戦線を結成し、これを指導して、暴力革命＝革命戦争を遂行し、民主主義＝最小限綱領を実行する人民連合独裁を樹立し、革命を徹底して遂行しなければならない。そして、次に、この権力を、社会主義＝最大限綱領を実行するプロレタリア階級独裁へ転化し、連続的に社会主義革命に進まなければならない。こうして、朝鮮の南北統一が実現されると、南ベトナムでは、このように革命が進行し、現在、反米・チニ打倒の民族民主革命から連続的に社会主義革命へ発展し、ベトナムの南北統一を実現しつつある。南朝鮮でも、革命は必ずこのように進行する。南朝鮮プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党である統一革命党は、このような革命戦略、革命路線である。

朝鮮民主主義人民共和国は、唯一、朝鮮人民を代表し、朝鮮民族の唯一の独立国家である。プロレタリア階級独裁の社会主義国である。朝鮮労働党は、確固とした朝鮮プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党であり、実際には、現代修正主義に対する批判・斗争を進め、社会主義においてもプロレタリア階級独裁を堅持し、社会主義革命を継続している。自主的平和的統一の自主的統一とは、外國の勢力、帝国主義を排除して、朝鮮の南北統一を朝鮮民族が自主的に実現することである。平和的統一とは朝鮮の南北統一を平和的に行なうことであり、その前提である南の民族民主革命は暴力革命を行なうのであり、全く革命的で正しい。

在日朝鮮人は、朝鮮民族の重要な一部分であり、その民主的民族的権利は当然保証されなければならない。在日朝鮮人は、現在、日本帝国主義の民族的抑圧に対して斗い、朝鮮人民の有力な方面軍として、朝鮮人民と日本人民の結合の要として、民族の解放と祖国の統一のための斗争を強めている。

日本は帝国主義国、抑圧民族の地位にある。朝鮮は、植民地国、被抑圧民族の地位にある。したがって、日本のプロレタリア階級は、朝鮮民族の民族自決（国家的に分離する自由）を承認しなければならない。これがプロレタリア国際主義であり、こうしてこそ、日本のプロレタリア階級は、朝鮮のプロレタリア階級と結合できる。

現在、朝鮮民族は、民族自決（国家的分離）を、具体的に、朝鮮民主主義人民共和国と朝鮮人民の自主的平和的統一斗争、南朝鮮人民の反米・反日・朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民主的民族的権利のための斗争として提起し、実行しつつある。したがって、日本のプロレタリア階級は、この朝鮮革命を支持しなければならない。これが日本のマルクス・レーニン主義派の態度である。

(3) 朝鮮革命と結合し、米帝、日帝の朝鮮侵略、反革命を日本革命に転化せよ！ 安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命！

日本は、日本帝国主義、日本ブルジョア階級と米帝国主義の連合支配である日米安保体制の下にある。敗戦の日帝と戦勝の米帝との関係、日帝とアジアの社会主義国との関係、アジアの民族解放斗争との関係、日本のブルジョア階級とプロレタリア階級との関係、これが、この日帝と米帝の連合支配＝安保体制を成立させているのである。

当面する日本革命は、日米安保体制を粉碎する革命であり日本帝国主義を打倒する革命あり、同時に、米帝国主義を追放する民族解放である。つまり、民族解放を含む社会主義革命である。社会主義革命の原動力はプロレタリア階級と貧農＝半プロレタリアであり、中農＝小ブルジョア・都市小ブルジョア階級中小商品生産の集団化によって、社会主義革命に参加しうる。これらの諸階級は、民族解放の原動力である。プロレタリア階級は、マルクス・レーニン主義党を建設し、その指導を通して、貧農と同盟し、中農、都市小ブルジョア階級を結集して、社会主義統一戦線を結成し、暴力革命＝革命戦争によつてプロレタリア階級独裁を樹立しなければならない。

日本帝国主義は、帝国主義である限り、安保体制の下で、米帝国主義と連合し、朴政権を手先とした朝鮮侵略・反革命の強化、戦争へ、ブルジョア階級独裁の統治形態の天皇制ファシズム化へ、国家独占資本主義の強化、搾取、収奪、抑圧の強化へ突き進まさざるをえないし、実際に突き進んでいる。だが、これは、日本帝国主義の統治能力の低下、プロレタリア階級と人民の斗争の革命的高揚をもたらし、実際にもたらしている。体制的危機の始まり、深まりと革命情勢の端緒的開始である。プロレタリア階級と人民の大衆斗争は、朝鮮侵略・反革命に反対し、戦争に反対する斗争、反動化に反対し、天皇制ファシズムに反対する斗争、国家独占資本主義の下での搾取、収奪、抑圧の強化に反対する斗争を三大水路として発展し、爆発しつつある。

ここから、マルクス・レーニン主義派の戦略的総路線が出てくる。「朝鮮革命と結合し、米帝・日帝の朝鮮侵略・反革命を日本革命に転化せよ！」が戦略であり、「安保粉碎・日帝打倒・プロ独・社会主義革命」が総路線である。そして、この戦略的総路線を物質化し、実践化するために、次の三大任務を貫徹しなければならない。第一の任務は、革命的宣伝、扇動である。大衆斗争の三大水路に対応して、①朝鮮革命、つまり、朝鮮人民の自主的平和的統一斗争、南朝鮮人民の反米・反日・朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民主的民族的権利のための斗争を支持すること、②天皇制ファシズムを打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立すること、③国家独占資本主義から社会主義へ前進すること、を宣伝・扇動しなければならない。第二の任務は革命的斗争である。天皇制ファシズムの武装力をセン滅する武装斗争をゲリラ戦として開始し、斗かわれなければならない。第三の任務は、革命的組織である。職業革命家の組織を中心とする中央集権制として、プロレタリア階級独裁の集中的表現として、武装して斗う非合法のマルクス・レーニン主義党を建設しなければならない。

(4) 安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命をとことん推進し、ソ連社会帝の侵略に反対せよ！

朝鮮革命の爆発、米帝・日帝の朝鮮侵略・反革命戦争は、いずれも不可避免である。かつて、獨で、プロレタリア階級の社会主義革命が敗北し、ファシズム化したブルジョア階級独裁、国家独占資本主義化した資本主義として、独帝国主義が登場したことが、独・日・伊帝国主義と米・英・仏帝国主義との第二次大戦への転回点となつた。同様に、ソ連でプロレタリア階級独裁、社会主義がファシズム

化したブルジョア階級独裁、国家独占資本主義へ変質し、転化し、ソ連が社会帝国主義、言葉では「社会主義」でも実際は帝国主義として登場したことが、米・ソの第三次帝国主義世界大戦を不可避としているのである。

米帝と日帝は朝鮮侵略反革命戦争にめり込むであろう。だが、それだけでなく、米帝はソ連社帝との第三次大戦にめり込み、日帝は米帝によつてソ連社帝との戦争に引っ張り込まれるであろう。かつて、第二次大戦で、オランダ、ベルギーが、そして仏も独帝によつて侵略占領された。同様に、予測される米ソの第三次大戦でソ連社帝が日本を侵略、占領し、米帝を日本から追放し、日本帝国主義、日本のブルジョア階級の一部を亡命させ、他の一部の親ソ派を基盤とし、社会主義協会や「共産党」を手先としてカイライ政権をデッヂ上げる可能性がある。ここから、現在、日本のマルクス・レーニン主義派は「ソ連の侵略反対！」のスローガンを提起し、千島問題に対する態度を明らかにしなければならないのである。勿論、情勢はストレートに進行せず、ジグザグするであろう。

米帝は、一方で、朝鮮革命への反革命のために、他方で、ソ連社帝の覇権斗争のために、米・日・「韓」体制を強化している。しかし、米帝は弱体化し、二正面戦の力はない。だから、一方には、ソ連社帝との覇権争奪のために、中国と連合し、中国の修正主義化によつて、朝鮮革命を封じ込めようとする傾向があり、他方には、ソ連社帝と結託して朝鮮革命を封殺し、ソ連社帝を中国にけしかけようとする傾向がある。米帝は分裂している。かつて、英・仏帝が独帝をソ連にけしかけようとして、独帝と結託する傾向と、米帝に頼り、ソ連と結合し、ソ連を変質させ、革命を抑えつつ、独帝と勢力圏を争奪しようとする傾向とに分裂したのと同様である。しかし、結局、米帝は中国と連合し、中国によつてソ連社帝へけしかけられ、ソ連社帝と斗かわざるをえないであろう。かつて、英・仏帝が、結局、ソ連と連合して独帝と斗かわざるをえなかつたのと同様である。日帝は、朝鮮革命を封じ込めて南朝鮮支配を維持し、そして、日本本の社会主義革命を封殺して、プロレタリア階級と人民を支配し続けることに全力を集中している。しかし、これを単独で行なう力はない。だから、当面、米帝との連合支配＝安保体制を堅持している。しかし、米帝は弱体化している。ここから日帝は分裂し、一方には中国と連合し、中国の修正主義化によつて、これを行なう傾向があり、他方では、ソ連社帝との連合を成立させて、これを行なおうとする傾向がある。しかし、日帝には、中国、米帝、ソ連社帝を主動的に動かす力はない。逆に、受動的に動かされ、分裂を抱えつつ、全体としては、中国によつてソ連社帝へけしかけられ、米帝によつてソ連社帝との覇権争奪戦に引っ張り込まれるであろう。

ソ連社帝は、一方で、石油、資源問題での経済的誘惑と「北方領土」千島問題での政治的脅迫によつて、日帝を米帝から切り離し、抱き込み日米安保体制を崩壊させ、「アジア集団安保体制」へ組み込もうとしている。と同時に、他方で、朝鮮革命、日本のプロレタリア階級と人民の斗争を「支援する」と見せかけて利用し、変質させ、支配下に組み込み、社会主義協会や「共産党」を手先にしようとしている。これは、日帝の抱き込み、組み込みが失敗した場合に、日本を侵略占領し、米帝を日本から追放し、日帝を亡命させ、カイライ政権をデッヂ上げるためである。

中国はプロレタリア階級独裁の社会主義国家である。中国共産党は確固としたマルクス・レーニン主義党であり、社会主義においてもプロレタリア階級独裁を堅持し社会主義革命を継続しており、国際共産主義運動において、現代修正主義に対する批判、決別、斗争を推し進め、マルクス・レーニン主義潮流の指導的地位にある。かつて、スターリンの時代に、ソ連共産党は、社会主義においてプロレタリア階級独裁、社会主義革命を放棄し、現代修正主義になり始めた。ソ連のプロレタリア階級独裁、社会主義はブルジョア階級独裁、資本主義へ変質し始めていた。国際共産主義運動においては、現代修正主義が台頭し、支配し始めていた。この点が決定的に異なる。

中国の反米反ソ反霸権の国際路線は全く正しい。米ソ二大帝国主義の霸権主義と斗うのが当面する世界革命戦略である。中国は修正主義化せず、変質せず、主導権を握り、朝鮮革命を抑えず支援し米帝、日帝に南朝鮮支配の放棄を要求し、日本のプロレタリア階級と人民の斗争を抑えず、支援し、その上で、米帝、日帝をソ連社帝にけしかけるであろう。かつては、社会主義国、民族解放斗争、プロレタリア階級は、力が現在より弱く、独・日、伊と米、英、仏の二つの帝国主義集団と同時に斗かえず、ファシズムの独・日、伊帝に反対し、米、英、仏帝と連合するのを当面の世界革命戦略とせざるをえなかつた。それだけでなく、ソ連が修正主義化し、変質し始めており、反独日伊、反ファシズムの中で、主導権を握れず、革命を抑え始めた。この点が決定的に異なる。かつては、独帝に対して、ソ連と連合せざるをえなかつた英仏帝は同時に米帝に頼ることができ、米帝がソ連に対して主導権を握つたが、現在、ソ連社帝に反対して中国と連合せざるをえなかつた英仏帝が頼ることができた。帝国主義は存在せず、中国に対して主導権を握れる帝國主義は存在しない。この点が決定的に異なる。

反米反ソ反霸権が当面する世界革命戦略である。それを各国で実行する場合には、各国の権力と革命の特殊性の中で実行しなければならない。

毛沢東思想は、後進国植民地国の革命については反帝反封建民族民主革命の中で、プロレタリア階級が指導する人民連合独裁を樹立し連続的にプロレタリア階級独裁、社会主義革命へ進むマルクス・レーニン主義の路線を提起している。したがつてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの第三世界では、比較的容易に、人民の民族解放闘争に依拠して、反米、反ソ、反霸権闘争を推進する正しい路線が確立され実行されるであろう。バンクーラディッシュ・アンゴラなどでは、反米・反ソ・反霸権の国際路線を持つマルクス・レーニン主義の共产党が存在せず、ソ連の正体が暴露されていないことから一時的な混乱が起きたにすぎない。第二世界、つまり二流ではあるが帝国主義である西欧、日本では、プロレタリア階級の社会主義革命に依拠して反米・反ソ・反霸権闘争を推進するのが正しい路線である。しかし、これが確立され実行されるには、大きな困難がある。反米・反ソ反霸権の国際路線を持つ「毛沢東思想派」が資本主義の独占資本主義化、ブルジョア階級独裁のファシズム化に対して、社会主義革命を放棄し「民主主義革命」に後退しているからである。この「反独占・反ファシズム・民主主義革命論」の点で現代修正主義と同じである。ここから、反米・反ソ・反霸権闘争で自国のブルジョア階級、帝国主義に頼る誤った路線が発生するからである。

かつて、仏共産党は、第二次大戦、独帝の侵略占領の前に、人民戦線つまり、民主主義統一戦線の路線で社会主義革命を放棄し、プロレタリア階級を小ブルジョア階級に追随させ、ブルジョア階級・帝国主義に屈服させた。そして第二次大戦、独帝の侵略占領に際しては、独帝に対する民族解放の主導権を握れず自国のブルジョア階級、帝国主義（ロンドンに亡命していたドゴール政権）に渡し（ベトナム、アルジェリアに対する植民地支配の承認し）、その勝利の後に連続的に社会主義革命へ進むことが出来なかつた。これは修正主義の道であつた。これに対して、抗日戦争の主導権を国民党（米英帝国主義）に渡さず、握り、その勝利の後、国民党（米英帝国主義）に対する解放戦争、そして社会主義革命へと連続的に進んでいった。

これはそれ以前に、封建地主階級と買弁ブルジョア階級を基盤とする国民党（米英帝国主義）に対する、土地革命戦争（井岡山、端金ソビエト）を開拓し抜き最大の規模で共産党（プロレタリア階級）と赤軍（労農同盟）の陣地を建設してからである。これがマルクス・レーニン主義派の道であつた。

現在、日帝は、米帝との連合支配＝安保体制を堅持しており、米帝・日帝は朝鮮侵略反革命戦争へのめり込みつつある。したがつて、日本では、マルクス・レーニン主義派は、当面、朝鮮革命と結合し、安保粉碎、日帝打倒・米帝追放・プロレタリア階級独裁、社会主義革命を最大限とこどん推進すべきである。修正主義であり、社会帝

国主義である社会主義協会、「共産党」に対する批判闘争を推進し、

プロレタリア階級を最大の規模でマルクス・レーニン主義党に組織し、その指導下に人民・つまりプロレタリア階級と貧農・半プロレタリアと都市小ブルジョア階級を最大の規模で社会主義統一戦線に組織すべきである。この革命が勝利する前に、米ソの第三次帝国主義戦争が始まり、ソ連社会帝国主義が、日本を侵略占領し、米帝は日本から追放され日帝は亡命する可能性がある、この情勢の急変に対しても、マルクス・レーニン主義党（プロレタリア階級）は戦略の大転換が必要であり、ソ連社帝に対する民族解放から社会主義への二段階革命の路線を実行しなければならないであろう。党（プロレタリア階級と階級と人民（統一戦線）の陣型が強固であるならば情勢の急変にも対応でき戦略の大転換も実行できる。そして、党と人民の陣型は、現在、日帝、米帝と妥協すれば解体する。非妥協的に革命闘争を闘うことによってのみ強固に建設できる、なお、ソ連社帝に対する民族解放に際して必要なら日帝と連命できる。その場合必ず主導権を握り、朝鮮に対する植民地支配に反対しなければならない。そして、米帝と日帝は朝鮮侵略、反革命戦争を中止しなければならないであろう。この戦争では米ソの戦争は両者の側から日本と云う獲物をめぐる帝国主義戦争であり、日ソの戦争もソ連の側からは帝国主義の侵略戦争であるが、日本の側からは、反侵略の民族解放戦争である（現在日帝は、日ソ対立は勿論、米ソ対立も望まずソ連社帝との協調を追求している）。

ここからして、マルクス・レーニン主義派は、現在からソ連社帝を暴露し批判し侵略に対する闘争を準備すべきである。そして、千島問題について明確な態度をとるべきである。千島は天皇制の日本とツアードのロシアとの千島、樺太交換条約で日本の領土となつた。そして、日帝は第二次大戦での敗戦の後、サンフランシスコ講和で、日米安保体制を成立させた代償として沖縄を米帝に売り渡したと同様、千島を既にブルジョア階級独裁、資本主義へ変質しつつあつたソ連に譲り渡したのである。しかし、歯舞・色丹・国後、エトロフ四島は千島に含まれず譲り渡していない。米帝による沖縄占領と同様、ソ連による千島と四島の占領は明らかに帝国主義領土併合である。そして、現在ソ連社帝は、千島と四島を米帝との覇権争奪戦、日本侵略の前線基地としている。だから、日本のプロレタリア階級は、①ソ連社帝による千島占領に反対し②千島と四島を前線基地としたソ連社帝の侵略に反対すべきである。しかし千島と四島は天皇制の日本によつてそこに住んでいた北方諸民族の意志を無視して併合されたものであり、これは沖縄が沖縄民族の意志を無視して併合されたのと同じである。したがつて「北方領土」とか、「返還（奪還）」とかの主張はブルジョア民族主義である。プロレタリア国際主義の立場からは②北方諸民族の民族自決権を支持すべきである。沖縄問題で、日本のプロレタリア階級は「返還（奪還）論」に反対し①沖縄人民の米帝に対する民族解放と祖国復帰の闘争を支持し②それを利用した日帝による沖縄のアジア侵略反革命前線基地化に反対し③沖縄民族の日本に対する民族自決権（国家対分離の自由）を支持しなければならなかつた、千島問題では①について、また現在住んでいる北方諸民族が国家的にソ連との結合、ソ連からの分離と日本との結合のどれを望んでいるか不明であり、ソ連社帝による占領に反対しか主張出来ない。②については、日本は侵略する側ではなく侵略される側である。③の民族自決権（国家対分離の自由）の支持は現在はソ連に対するものであり、将来、北方諸民族が日本との国家的結合を求めた場合は日本に対するものである。

III パレスチナ革命と「日本赤軍」

に 対 す る 我々 の 態 度

「日本赤軍」は、よど号HJと同じく国際根拠地建設路線を基礎にしている。したがつて我々は「日本赤軍」に対する態度を明らかにしておこう。そのためにはパレスチナ革命の問題を見ておかなければ

ねばならない。

(1) パレスチナ革命の新たな前進が始まつた

パレスチナ革命は、現在新たな前進を開始している。第一はレバノン内戦でパレスチナ人民がレバノン人民と結合し、米帝の手先である右翼ファランへ党に対し、完全ではないが大きな勝利をかい取りパレスチナ革命の根拠地を獲得したことである。第二は占領地イスラエルの内部で、米帝の手先であるシオニズム国家に対するアラブ人民の闘争が発展しつつあるだけではなく、ユダヤ人民の闘争も発展しつつあり両者が結合する条件が生まれつたことである。

パレスチナ革命は、石油資源の獲得、ヨーロッパに対する戦略的要衛の制圧のためにアラブを支配しようし争奪をくり返す米ソ二大帝国主義に対するアラブ人民の民族解放闘争の一環である。そして、直接にはPFLPの綱領が明らかにしているように米帝のカイライであるイスラエル・シオニズム国家を打倒しパレスチナのアラブ人とイスラエルのユダヤ人が共存する民主的な独立国家を樹立する民族民主革命から社会主義革命へ進まなければならないであろう。されば、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の立場観点からすれば、第一段階の民族民主革命において、アラブ人のプロレタリア階級とユダヤ人のプロレタリア階級は結合し、アラブ人とユダヤ人の農民、都市小ブルジョア階級、民族ブルジョア階級を結集し指導し人民連合独裁として、民主的な独立国家を樹立しなければならないであろう。そして次に、この権力をプロレタリア階級独裁へ転化して連続的に社会主義へ進まなければならないであろう。このためにはアラブ人のプロレタリア階級とユダヤ人のプロレタリア階級が民族を越えて結合し、单一のマルクス・レーニン主義党を建設しなければならないであろう。いわゆるミニパレスチナ国家の建設という路線は民族ブルジョア階級の指導の下で、民族民主革命を不徹底に終らせ、一方では米帝のカイライであるイスラエルシオニズム国家を存続させようとするものであり、他方では、ミニパレスチナ国家をアラブの民族ブルジョア階級の独裁（これは結局、新植民地主義に屈し、新たな帝国主義のカイライとなるであろう）として樹立しよう（社会主義革命への発展は不可能となるであろう）とするものであろう。

(2) 「日本赤軍」はパレスチナ革命への日本人民義勇軍として闘うべきである

「日本赤軍」の個々の闘争は支持できる。クアラルンブル作戦は、朝鮮侵略・反革命を強め、戦争を準備する日米首脳会談に反対し米大使館を武装占拠し日本の獄中政治犯を奪還した点で支持すべきである。

しかし、「日本赤軍」の基本路線は誤まつてゐる。世界革命、世界党を目指しているのか？であるなら空論であり、かつ、ソ連社帝と中国に対する態度があいまいである。現代修正主義に対する批判、袂別、斗争を推進し、各国にマルクス・レーニン主義党を建設し、各国革命を実行し、国際的に、米帝だけでなくソ連社帝をも敵とする反霸権斗争を推進すべきである。国際共産主義運動のマルクス・レーニン主義潮流の筆頭である中国共産党と、そして、朝鮮労働党、ベトナム労働党などと結合すべきである。そうしてこそ、世界党、世界革命は可能である。日本革命を目指しているのか？であるなら国外逃亡であり、パレスチナ利用主義である。大菩薩の敗北からよど号HJの過程が連合赤軍問題から「日本赤軍」の過程として、より大規模にくり返されているのである。日本国内で、日本人民に依拠し日本のプロレタリア階級を組織して、武装して斗う非合法のマルクス・レーニン主義党を建設すべきであり、こうしてこそ日本革命は可能である。

「日本赤軍」は、既にパレスチナ人民、PFLPと結合している。